

# 不祥事根絶に向けた教育委員会のメッセージ

『事故一報担当の不祥事防止私案』 太田 章（千葉県教育庁学校危機管理監）

皆さん、毎日の仕事、お疲れ様です。私は、県内公立学校等の事件事故第一報担当の太田です。昨年度の第一報は約千百件。3分の1が交通事故でその3分の2が職員に関するものです。時間に余裕を持ち、後退時、休日・飲酒の翌日、自転車等も含め、常に細心の注意を払ってください。

まず「不祥事対策は万全。自分は大丈夫」と思う方へ。人間には、自分に迫る危険を過小に評価して心の平静を保とうとする「正常化の偏見」があります。また同僚の不祥事でも、全職員での各方面への対応となり、家族にも非難され、全県の仲間の顔に泥を塗る、重大事件も起こりえます。

日本教育学会元会長 佐藤学の著書には、「日本の学校における教師の協同は授業実践や研修においては十分に機能していない」「協同が最も重視される小学校の教師ほど孤独な職業は見出すことが困難」「(勤務時間短縮のためにも)職務と責任を共有し共同で仕事をするべき」とあります。皆さんご存じのとおり、志水宏吉著「公立学校の底力」の「力のある学校の8つの要素」の1番目は、「エンジン=気持のそろった教職員集団」で、子どもたちのためにできることは何でもやろうという思いの共有、日々のかかわりの中で培っていく職員相互の信頼関係、支え合い高め合う同僚性です。職員の「学校を更に良くする」という思いの一致と団結・協力・助け合いは不祥事防止にも重要です。

「集団をまとめるのは、集団のために謙虚な姿勢で尽くす公平無私なリーダーの姿」京セラ・KDDI創業者 稲盛和夫の言葉です。「泰然自若なリーダー」と言われた日露戦争の東郷平八郎や大山巖は、実際は最前線で部下の意見を聴き議論し、悪戦苦闘しながら細かな指示を出しています。校長は校内を歩き回り、職員に声をかけ雑談し、人柄等を理解し合い、寄り添い話を聴き、時には徹底的に話し込み、困っている職員は助け、職員の孤独・独善・独断を無くし、学校の具体的目標を決め職員の心をついにまとめ、学校の組織力を一層強化してください。一般職員のみならず、副校長・教頭・事務長の勤務状況も把握し、必要な支援やメンタルヘルスを怠らないでください。

職員の皆さんもお互いの性格・特技・特性を理解し認め合い、それらを生かせる場を設け、自己肯定感、仲間意識と信頼感などを一層高め、「すべての子を伸ばす」「すべての子の眼を輝かせる」等を合言葉に、経験年齢を問わず職員間の声かけ・教え合い・話し合い・助け合いを進め、更に明るい職場、子どもの話題であふれる職場としてください。ベテランの皆様は、中堅層が少なく学校運営や若手育成が厳しい現状をご理解いただき、より良い学校づくりに更に協力をお願い致します。

不祥事防止はまず、個々の職員の自己管理意識と細心の注意、教え子との一対一の指導や電話・メールの自粛など適切な距離の保持、同僚の協力と支援、生徒の噂を含めた上司への報告などです。私の不祥事防止具体案は、①日課=朝礼、報連相・複数対応・手順確認など基本の徹底、声かけ、日誌等記録と自己点検の徹底。②職員専用サイト=仕事の合間に書き込める質問・回答・提案・意見など職員交流の場。③授業公開の拡充=ベテランから範を示し要点を②で共有し財産化。④若手育成計画=例えば3年計画で、標語提案⇒宴会幹事⇒研修企画。⑤若手個別育成チーム=年齢・性別(教科)も多彩な職員数名に依頼し、親睦行事を契機とした若手職員が気楽に話せる関係づくり。⑥校内研修の濃縮化=事前に情報伝達、意見等収集と分析、テーマ提示と事例研究を②等で行い、研修対象者を絞り、当日は本題のみとし短時間化し必ず全員が発言、事後に報告書を②で共有。⑦ベテランが活躍するモラルアップ委員会。⑧標語の活用=当番で作成し掲示、唱和。⑨個人の知識・技能の共有=全員アンケート等で収集し②で共有し財産化。⑩確認シートの進化=考えさせる項目とし、記述回答も導入。⑪訓話・注意喚起の際発言内容を配付し、②へ保存。⑫チーム〇〇=様々な場所・場面での使用。⑬他校不祥事の防止策原案を②で示し、全職員の意見を反映して改善。⑭生徒情報等の収集と即応、蓄積と継承。⑮学校関係者との意見交換と連帯。いかがでしょうか。貴校の不祥事防止対策の改善のヒントになれば幸甚です。

ベテランの皆様は、豊富な知識や知恵の提供とともに、「教え子との感動の出来事」をぜひ随筆にしてください。感動の出来事の共有は、「教育者としての使命感と誇り」を確認でき、全職員の心の向きを一致させ、やる気を高め、学校の貴重な財産=歴代の先輩・同僚の貴重なアーカイブにもなります。

若手職員は、質問や提案とともに、最新の技術や製品、そして最近の子の感性、流行などを私のような昭和生まれのベテランに解説してください。

子どもたちは「未来」そのものです。未来を築く崇高な「教育」という仕事に全職員が自信と誇り、使命感を持って、すべての児童生徒を愛しみ、育むべく、更に団結と協力、交流をお願い致します。



気持のそろった職員集団と職員間の声かけ・教え合い・話し合い・助け合い

日頃の自己管理意識

平成29年12月  
千葉県教育委員会

仲間意識と相互確認